

今月のおすすめ図書

◆一般図書

13歳からの経営の教科書
「ビジネス」と「生き抜く力」を学べる青春物語



岩尾 俊兵 / 著 KADOKAWA
図書室で不思議な教科書に出会った中学生たち。仲間と社会の課題に向き合います。経営や会社など、ビジネスについて物語形式で楽しみながら学べる一冊。

ナスレディン スープのスープ



ジハド・ダルウィシュ / 著 松井 裕史 / 訳
ヨシタケ シンスケ / 絵 理論社
イスラム圏でよく知られる登場人物、ナスレディン・ホジャのとんち話や笑い話を63篇収録。秀逸なオチや人生の知恵が満載です。

♥児童図書

まだかなまだかな



伊藤 正道 / 文・絵 偕成社
きいろにかがやく星にすむ、ひとりのおじいさん。いろいろなたねを、どうぶつたちと大切に育てました。ですが、ひとつだけなかなか芽が出なくて…

いたいのいたいのとんでけ



平出 衛 / さく 福音館書店
おかあさんに「いたいのいたいのとんでけ」をしてもらったこいぬくん。「いたいの」がどこへ行ってしまったのか気になって…。さて、無事にみつかるでしょうか？

ぶらり らいぶらり

米子市立図書館からのお知らせ

米子市立図書館 (☎ 22-2612 FAX 22-2637)

開館時間 平日：午前9時～午後7時

土・日・祝日：午前10時～午後6時

今月の休館日 毎週月曜日、31日(月末資料整理)

高校生のためのビジネスプラン作成講座



くわしくはHPで



アイデア発想について学び、作成演習を行う過程で、自ら学び、考え、課題を見つける力、課題を解決するための論理的な思考力、他者と協働しながら課題を解決する力を養うことができる講座です。ビジネスの知見を深め、社会人や大学生になってから生かせる力を養いませんか？皆様のご参加をお待ちしています。

▶と き 8月8日(木) 午前10時～午後4時

▶対 象

鳥取県内の高校生または高専生(1～3年生)からなるグループまたは個人

夏休み企画「小さな命をまもろう」 米子市立図書館シッポの友達文庫イベント

セミナー、ペットの情報交換会、写真展など(当日自由参加)



▶と き

7月28日(日) 午後1時30分～4時

今月の催し (☆印は要事前予約)

「おはなし会」

▽木曜おはなし会(ほしのぎんか・火曜の会・図書館職員)

毎週木曜日 午前10時40分

▽夕方おはなし会(図書館職員)

9日(火) 午後4時

▽おはなしかご(米子おはなしかご)

20日(土) 午前10時30分

「各種講座」

▽つつじ読書会『巨匠とマルガリータ』

下『ブルガークロフ作(岩波書店)(初

めての方☆) 6日(土) 午後2時

▽楽しく漢文に学ぶ会(初めてのの方☆)

7日(日) 午後1時30分

▽いきいき長寿音読教室(☆)

9日(火) 午後3時、10日(水) 午前10

時30分(2日(火) 午前9時受付開始)

※8月の予約は8月1日(木)受付開始

▽鳥取大学サイエンスアカデミー

13日(土)、27日(土) 午前10時30分

▽古文書研究会「多比能實知久佐」ほか

27日(土) 午後1時30分

▽伯耆文化研究会

「文化財と3D技術」大原圭太郎さ

ん、「まぼろしの夜見ヶ浜人」3(発

見報告)根平雄一郎さん

13日(土) 午後1時30分

▽2階ギャラリー

▽アート作品展「Same of us」

4日(木)～19日(金)

▽小さな命の写真展

13日(土)～8月7日(水)



米子水鳥公園の指導員（レンジャー）が
日々の活動をご紹介します！

米子水鳥公園 レンジャー通信

文／米子水鳥公園統括指導員 桐原 佳介

昨年の夏は、ネイチャーセンター入口の工事のため、視聴覚室前の非常口を臨時入口としました。その結果、普段目にとまらなかつたタブノキが、臨時通路の真横に見えるようになりました。この木の幹からは樹液が出ており、カブトムシなどの樹液に集まる昆虫が目の前で観察できました。その中で特に印象的だったのが、コムラサキです。

コムラサキ

コムラサキは、日本の国蝶であるオオムラサキよりも小さく、羽が紫色に輝きます。幼虫はヤナギの葉を食べるので、ヤナギが生えている所で見られます。

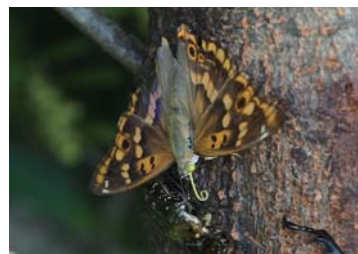
水鳥公園は道路沿いにヤナギがたくさん生えています。これまでほとんど見られなかったのが不思議です。

羽が紫に輝くのはオスだけです。そして、常に輝いているのではなく、羽の角度によって紫が現れたり消えたりします。羽をゆっくりと開閉すると、キラッ、キラッと一瞬紫に輝く様子がとてもきれいです。

今は工事が終わり、タブノキは再び目にとまらなくなりました。しかし、今年も樹液が出るか、コムラサキがやって来るのかに注目しようと思います。



オスの羽は紫色に輝く

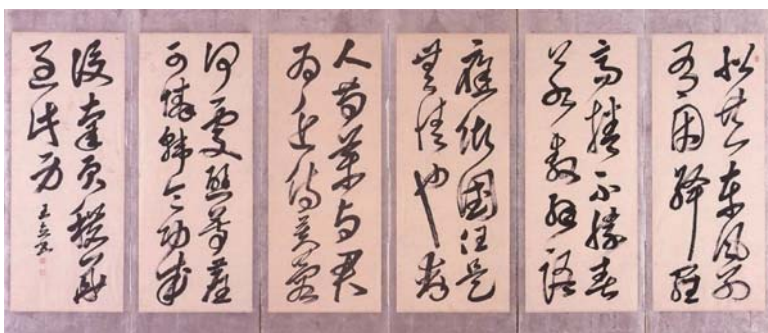


羽の角度が変わると輝きが消える

美術館通信

特別企画展「米子の書－先人と現代 書の祭典－」

米子は書道人口が多い地域です。江戸末期、児玉玉立（1794-1861）が米子地域の書活動を流布し、それを受け継ぐ書家たちが、明治、大正、昭和と米子の書を発展させてきました。本展は昭和期（特に昭和20年以降）の先人の米子の書を中心に、また現在書活動を行っている作家たちの作品もあわせて紹介します。



児玉玉立 《羅隱詩 牡丹》制作年不詳 六曲一隻屏風
米子市美術館蔵

また、会期中関連事業として、高校生による書道パフォーマンス、ワークショップ、おやこでアートじかん、ギャラリートークなどを行います。

■会期 7月21日（日）～8月25日（日）〔水曜日休館〕

■観覧料 一般 500円（前売 400円）大学生以下無料 ④ 米子市美術館（☎ 34-2424 FAX 33-0679）